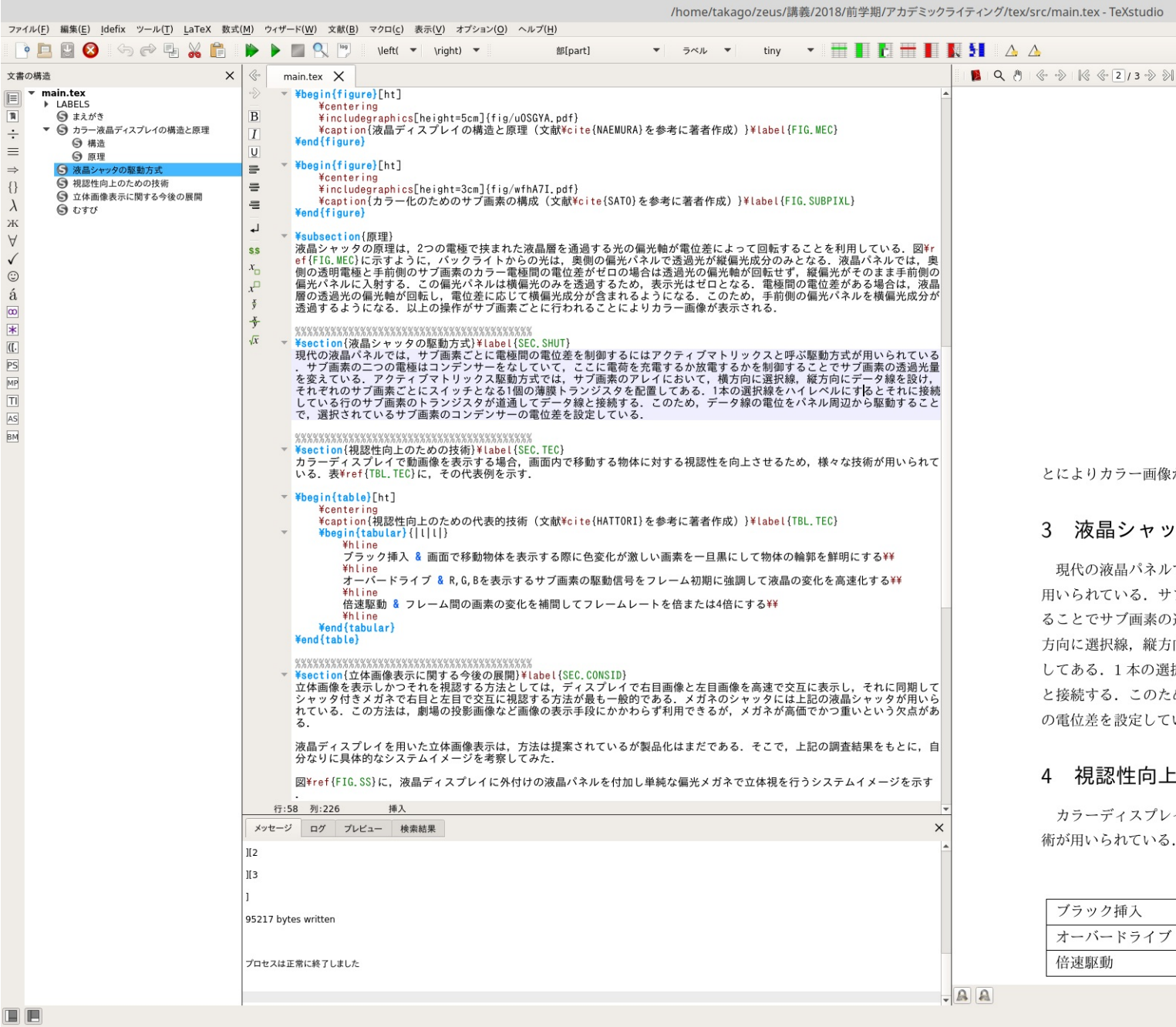


TeXStudioの使い方

目次

- 環境の設定 (←配布しているLinuxでは設定済み)
- キー操作
- Tips
 - 複数のインスタンスを起動したいとき
 - TeXStudioから、LuaLaTeXを使う時は"-file-line-error"を指定しないほうがよいかも
 - TeXStudioの Magic Comment(マジックコメント)
 - エディタカーソルとPDF表示箇所の連携機能の使い方
 - 全角スペースが入力されないように日本語入力システムを変更する方法
 - 作業の中断・再開の方法
 - TeXソースエディタ画面とPDFビューア画面の間のジャンプ【便利!!!】
 - 画像の挿入もある程度は案にできる
 - IDEの見た目の調整

This page was last edited at: 2024/08/08 11:05



環境の設定 (←配布しているLinuxでは設定済み)

- メニューバーの「オプション」→「TeXStudioの設定」を押す
- 左下隅の「高度なオプションの表示」を押す(今後は「高度なオプションの表示」をチェックは外さないでください。設定が消えることがあります。)

- 左側ペインの「一般」を押し、次の項目を入力する

項目	変更後	変更前
フォント	Noto Sans CJK JP	DejaVu Sans

- 左側ペインの「コマンド」を押し、次の項目を入力する

項目	変更後	変更前
LaTeX!	ptex2pdf -u -l -ot "-synctex=1 -interaction=nonstopmode" %.tex	latex -src -interaction=nonstopmode %.tex
DviPdf	dvipdfmx %.dvi	dvipdf %.dvi

- 左側ペインの「ビルド」を押す、「メタコマンド」を次のように設定する

項目	変更後	変更前
ビルド&表示	txs:///latex txs:///view-pdf-internal --embedded	txs:///compile txs:///view
規定のコンパイラ	txs:///latex	txs:///pdflatex

とによりカラー画像が

3 液晶シャッ

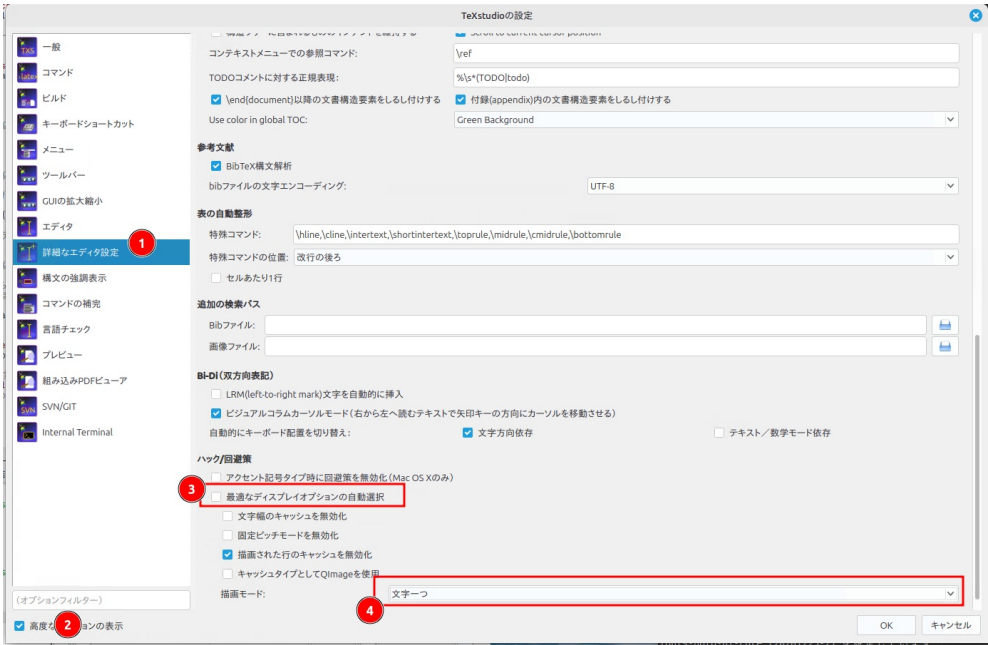
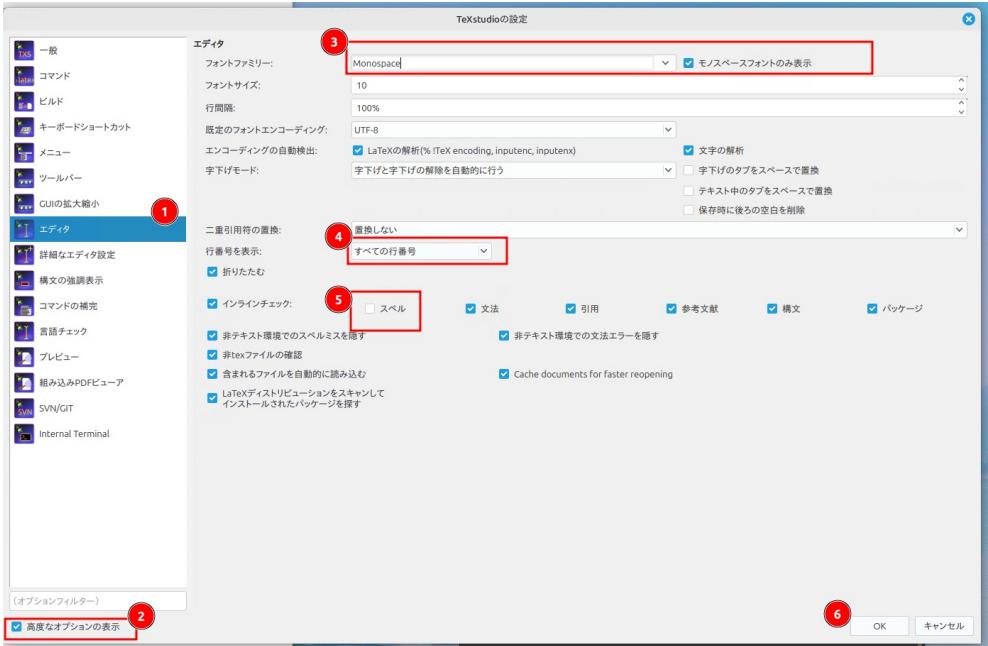
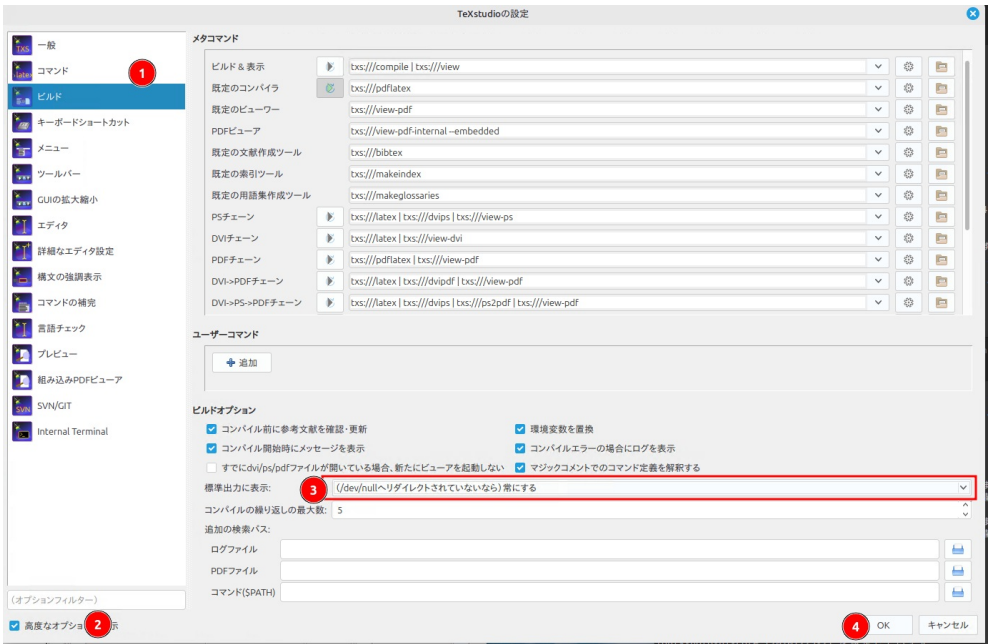
現代の液晶パネルでは、サブ画素ごとに電極間の電位差を制御するにはアクティブマトリックスと呼ぶ駆動方式が用いられている。サブ画素の二つの電極はコンデンサーをなして、ここに電荷を充電するか放電するかを制御することでサブ画素の透過光量を変えている。アクティブマトリックス駆動方式では、サブ画素のアレイにおいて、横方向に選択線、縦方向にデータ線を設け、それぞれのサブ画素ごとにスイッチとなる1個の薄膜トランジスタを配置してある。1本の選択線をハイレベルにするとそれに接続している行のサブ画素のトランジスタが導通してデータ線と接続する。このため、データ線の電位をパネル周辺から駆動することで、選択されているサブ画素のコンデンサーの電位差を設定している。

4 視認性向上

カラーディスプレイの視認性向上のための技術が用いられている。

ブラック挿入
オーバードライブ
倍速駆動

4. 左側ペインの「エディタ」を押し、次のように設定する
- a. フォントの設定
- | 項目 | 変更後 | 変更前 |
|-----------|-----------------------|------------------|
| フォントファミリー | Noto Sans Mono CJK JP | DejaVu Sans Mono |
- b. 「インラインチェック」を解除する（これをしておかないと、和文の至るところが赤い波線で引かれるようになる）
5. 「詳細なエディタ設定」→「ハック/解決策」→「最適なディスプレイオプションの自動選択」を無効にしてから、「描画モード」を「文字一つ」にする。これで、全角カッコなど一部の全角文字付近でカーソルがうまく動かせない問題に対応できる。
6. 「OK」を押す。



かなり直感的に使用することができます。

基本的には **F5** を押すだけで足りると思います。

キー	処理
F5	ビルドと表示
F6	ビルドのみ
F7	表示のみ
ESC	プレビューを消してエディタ部を広げて表示する

Tips

複数のインスタンスを起動したいとき

デフォルトでは一つのインスタンスを使います。

複数起動したい時は "--start-always" を付けてtexstudioを起動するとよい。

```
$ texstudio --start-always &
```

TeXStudioから、LuaLaTeXを使う時は "-file-line-error" を指定しないほうがよいかも

-file-line-error を指定すると、エラー箇所が表示されなくなる模様

TeXStudioの Magic CommentS(マジックコメント)

メインのtexファイルが main.tex とした場合、main.texの冒頭に以下のような記述をしておくといでしょう。デフォルトのPDFコンパイル処理内容を一時的に変更したりできます。

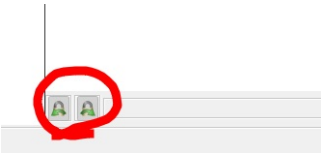
```
% TEX STUDIO MAGIC COMMENT
% !TeX document-id =
% !TeX root = main.tex
% !TeX encoding = utf8
% !TeX spellcheck = none
% !TeX TXS-program:latex = ptex2pdf -u -l -ot "-synctex=1 -halt-on-error -interaction=nonstopmode" %.tex
% !TeX TXS-program:dvi2pdf = dvipdfmx %.dvi
% !TeX TXS-program:compile = txs:///latex
% !TeX TXS-program:quick = txs:///compile | txs:///view-pdf-internal --embedded
```

サブのtexファイルの冒頭に以下のような記述をしておくといでしょう。

```
% !TeX root = main.tex
% !TeX encoding = utf8
```

エディタカーソルとPDF表示箇所の連携機能の使い方

内蔵PDFビューアの下にある2個のボタンを押しておくとい。テキストエディタ内でカーソルキーを動かすと、PDFも自動的にスクロールする。



全角スペースが入力されないように日本語入力システムを変更する方法

TexStudioのエディタ画面では**何故か半角スペースと全角スペースが同じ幅で表示されてしまう**ようです。全角スペースは普通のCプログラムを書くときも混乱のもとになるので、入力されないように変更したほうが良いでしょう。具体的には端末窓で

```
/usr/lib/mozc/mozc_tool -mode=config dialog
```

とタイプすると日本語入力の設定ウィンドウが表示されるので、「スペースの入力：**半角**」にセットすればOKです。

作業の中断・再開の方法

- main.texファイルをドロップすれば、前回の続きから再開できます。
- あるいは、「セッションの保存」を行い、再開するときは「セッションの読み込み」を行って下さい(*.txssファイル)。

TeXソースエディタ画面 と PDFビューア画面 の間のジャンプ【便利！！】

- TeXStudio内のPDFビューア画面で、**CTRL**を押しながら**左クリック**で、対応するエディタ画面が表示されます。
- TeXStudio内のエディタ画面で、**CTRL**を押しながら**左クリック**で、対応するPDFビューア画面が表示されます。

画像の挿入もある程度は楽にできる

画像ファイルをtexstudio内にドロップすると

```
\begin{figure}
\centering
\includegraphics{xxxx}
\caption{\}\label{fig.xxxx}
\end{figure}
```

が自動的に書き込まれる。

IDEの見た目の調整

Qt5アプリケーションなので、TeXStudioを起動した状態で

```
qt5ct
```

コマンドで開くウィンドウを使って設定できます。

```
}})
```

ヒラギノフォントをセットアップしてあるなら -od "-f otf-up-hiragino-pron.map" も追加するとフォント埋め込み可能